

『難経集註』の名の由来

松岡尚則^{a e} 松村政久^b 別府正志^c 山口秀敏^d
中田英之^e 阿南多美恵^e 牧角和宏^f 秋葉哲生^{e g h}

a 東邦大学総合診療・急病講座, 東京, 〒143-8540 大田区大森西 6-11-1

b 徳島文理大学香川薬学部, 香川, 〒769-2193 さぬき市志度 1314-1

c 東京医科歯科大学医歯薬学教育システムセンター, 東京, 〒113-8510 文京区湯島 1-5-45

d 信州医療福祉専門学校, 長野, 〒380-0816 長野市三輪 1313

e 練馬総合病院漢方医学センター, 東京, 〒176-8530 練馬区旭丘 1-24-1

f 牧角内科クリニック, 福岡, 〒814-0011 福岡市早良区高取 2-17-43-202

g 伝統医学研究会あさば伝統医学クリニック, 千葉, 〒289-1805 山武市蓮沼ニ -2086 番地

h 東邦大学医療センター佐倉病院, 千葉, 〒285-8741 佐倉市下志津 564-1

The roots of name of “Nan-jin-ji-zhu”

Takanori MATSUOKA^{ae} Masahisa MATSUMURA^b

Masashi BEPPU^c Hidetoshi YAMAGUCHI^d

Hideyuki NAKATA^e Tamie ANAN^e

Kazuhiro MAKIZUMI^f Tetsuo AKIBA^{egh}

a Department of General Medicine and Emergency Care, Faculty of Medicine, Toho University, 6-11-1, Omorinishi, Oota-ku, Tokyo, 143-8540, Japan

b Kagawa School of Pharmaceutical Sciences, Tokushima Bunri University, 1314, Shido, Sanuki-city, Kagawa 769-2193, Japan

c Center for Education Research in Medicine and Dentistry, Tokyo Medical and Dental University, 1-5-45 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8510, Japan

d Shinshu College of Medical Welfare, 1313, Miwa, Nagano-city, Nagano, 380-0816, Japan

e Nerima Sogo Hospital, 1-24-1, Asahigaoka, Nerima-ku, Tokyo, 176-8530, Japan

f Makizumi Internal Medicine Clinic, 2-17-43-202, Takatori, Sawara-ku, Fukuoka, 814-0011, Japan

g AKIBA Clinic of Traditional Medicine 2086, Hasunumani, Sammu-city, Chiba, 289-1805, Japan

h Sakura Medical Center, Toho University Hospital, 564-1, Shimoshizu, Sakura-city, Chiba, 285-8741, Japan

Abstract

We searched about the roots of name of “Nan-jin-ji-zhu”. The title name of “Qing-an Nan-jin-ji-zhu” book was Wang-han-lin-ji-zhu-huang-di-ba-shi-yi-nan-jin. The title of “Nan-jin-ji-zhu” in Toyo Shinkyu College of Oriental Medicine and The Palace Museum in Taiwan, was Wang-han-lin-ji-zhu-jia-bu-zhu-huang-di-ba-shi-yi-nan-jin. The “Qing-an Nan-jin-ji-zhu” book was published in 1652. There was many publish that have “ji-zhu” before 1652. “Nan-jin-ji-zhu” was named as publish situation in the times.

要旨

一般には『難経集註』と呼ばれる一連の書について、その名の由来を考察した。慶安本の内題は王翰林集註黄帝八十一難経、東洋鍼灸専門学校蔵本・故宮博物院図書館蔵本の内題は王翰林集諸家補註黄帝八十一難経であった。慶安本は慶安五年に刊行されている。この刊行より前に、「集註」の名が付く書が多く出版されていた状態があったことを確認した。難経集註はこうした出版情況に合わせて名付けられたと考えられた。

キーワード：難経，集註，難経集註，王翰林集註黄帝八十一難経，王翰林集諸家補註黄帝八十一難経

Key words : Nan-jin, Ji-zhu, Nan-jin-ji-zhu, Wang-han-lin-ji-zhu-huang-di-ba-shi-yi-nan-jin, Wang-han-lin-ji-zhu-jia-bu-zhu-huang-di-ba-shi-yi-nan-jin

緒言

一般に『難経集註』と呼ばれる書がある。この書は、『王翰林集註黄帝八十一難経』慶安本，古鈔本『王翰林集諸家補註黄帝八十一難経』（東洋鍼灸専門学校蔵本），古鈔本『王翰林集諸家補註黄帝八十一難経』（故宮博物院図書館蔵本）の総称として用いられている。これらの書は五家註を現代に残す原典に遡れる可能性を持つ書である。

通常，漢籍の題は，内題を採る。しかし，内題は『難経集註』ではないにもかかわらず，一般にこれらの書は『難経集註』と呼ばれる。なぜなのであろうか。これについて考察を行うことにした。

方法

『王翰林集註黄帝八十一難経』慶安本，古鈔本『王翰林集諸家補註黄帝八十一難経』（東洋鍼灸専門学校蔵本），古鈔本『王翰林集諸家補註黄帝八十一難経』（故宮博物院図書館蔵本）における題を抜き出し検討した。

また，『難経集註』慶安本以前の「集註」の名が付く出版状況を確認するため，全国漢籍データベース（京都大学）¹⁾を使用した。

結果

一般に『難経集註』といわれる書の題は，慶安本²⁾では『王翰林集註黄帝八十一難経』（図1），東洋鍼灸専門学校蔵本³⁾（図2）と故宮博物院図書館蔵本⁴⁾（図3）では『王翰林集諸家補註黄帝八十一難経』と異なっていた。

さらに，『難経集註』といわれる一連の書では，外題も異なっていた。国立公文書館内閣文庫所蔵（300函190号）の慶安本五冊本では，内題（一卷の巻首題）は『王翰林集註黄帝八十一難経』となっており，一卷～五巻において題簽（貼外題）が付いておらず外題はない。序題および目録題は『集註難経』となっている。柱題は『難経集註』であった。早稲田大学所蔵の慶安本（ヤ09 00207 1-5）五冊本においても題簽（貼外題）が付いていない。しかし，各冊表紙左端上部に「集註難経 一（～五）」と直接墨書されて外題が付いていた。柱題は『難経集註』で

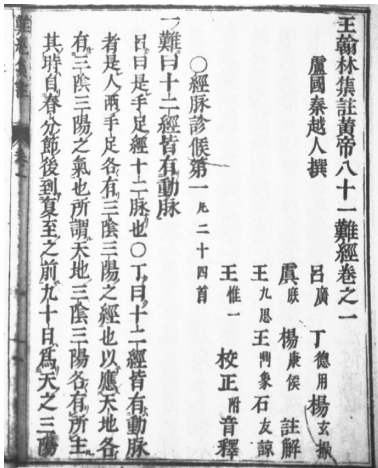


図1 慶安五年本『王翰林集註黃帝八十一難經』(慶安本)

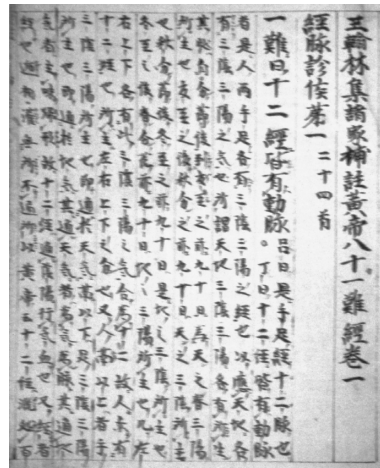


図2 古鈔本『王翰林集諸家補註黃帝八十一難經』(東洋鍼灸専門学校蔵本)
 森立之(1807-1885)所蔵といわれる。「森氏」と「青山求精堂/蔵書畫之記」の印記が序文に見られる。森立之の弟子の青山道醇(求精堂)に渡ったと考えられる。現在、東洋鍼灸専門学校所蔵となる。森立之『経籍訪古志』には、「元治元年(1864)小春のこと、浅草の書店で『難經集註』の鈔本を得た。書式は慶安本と異なる。」と記す。また、巻末に森立之による識語を認める。

あった。台湾国立故宫博物院図書館所蔵の慶安刊手校本『王翰林集註黃帝八十一難經』(森立之手校本)五冊本⁵⁾では、題簽(貼外題)(一卷~五卷)、柱題が『難經集註』となっていた。いずれの慶安本においても、一卷、四卷、五卷の巻末題、二卷、三卷、四卷、五卷の巻頭題は『王翰林集註黃帝八十一難經』となっていた。また、二卷、三卷では、巻末題はない。

古鈔本『王翰林集諸家補註黃帝八十一難經』(東洋鍼灸専門学校蔵本)³⁾では、内題(一卷の巻首題)は『王翰林集諸家補註黃帝八十一難經』となっており、外題は『舊鈔本難經集註』となっている。序文題はない。目録題では『王翰林集註黃帝八十一難經』となっている。一卷、二卷、五卷の巻末題、二卷、三卷、五卷の巻頭題は『王翰林集註黃帝八十一難經』となっている。三卷の巻末題は『八十一難經』で、四卷の巻頭題は『集諸家註黃帝八十一難經』、四卷の巻末題は『黃帝八十一難經』で慶安本と異なっていた。

古鈔本『王翰林集諸家補註黃帝八十一難經』(故宮博物院図書館蔵本)全五卷二冊・影古鈔本⁴⁾では、内題(一卷の巻首題)は『王翰林集諸家補註黃帝八十一難經』となっていた。外題は『難經集註 影古鈔本』と書かれていた。序文題はない。目録題では(目録頭、末ともに)『王翰林集註黃帝八十一難經』となっていた。二卷の巻末題は『王翰林集註黃帝八十一難經』となっており、東洋鍼灸専門学校蔵本と異なり、ゴンベンがサンズイになっていた。一卷、五卷の巻末題、二卷、三卷、五卷の巻頭題は『王翰林集註黃帝八十一難經』となっていた。三卷の巻末題は『八十一難經』で、四卷の巻頭題は『集諸家註黃帝八十一難經』、四卷の巻末題は『黃帝八十一難經』となっており、二卷の巻末題の『王翰林集註黃

は火災で消失し、世に伝わるものは希になり、……」と書かれる。濯纓堂本の多紀元簡による「重刊難經集註序」⁷⁾には「況んや慶安中刻する所の王翰林が集註、已に火に毀らる。世、罕に之を伝ふ。」と書かれている。この慶安本での題では、柱題のみが『難經集註』であり、外題に記されるものと記されないものがあるものの、他の題では見られない。

東洋鍼灸専門学校蔵本は森立之（1807-1885）所蔵といわれる。「森氏」と「青山求精堂／蔵書畫之記」の印記が序文に見られることから、森立之の弟子の青山道醇（求精堂）に渡ったと考えられる。現在、東洋鍼灸専門学校所蔵となり、2010年に北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部より原寸大で『難經集註旧鈔本』と題され、影印出版された³⁾。森立之『経籍訪古志』には、「元治元年（1864）小春のこと、浅草の書店で『難經集註』の鈔本を得た。書式は慶安本と異なる。」と記す。また、巻末に森立之による識語を認める。この東洋鍼灸専門学校蔵本中に外題を除いて『難經集註』の題はまったく見られない。

故宮博物院図書館蔵本は現在、台湾故宮博物院に存在する（箱號一四六八、觀字六一四號、天字一〇三五號、故觀號一四〇七八・七九）。楊守敬の手を経て彼地に渡ったものであろうと考えられる。料紙は薄葉斐紙で、薄葉楮紙で裱装する。無界、無邊、無版心、無魚尾。本文、文字部の天地約20.3 cm、9行・行20字。目録部分に楊氏の蔵印記四種。明治日本人の精寫で、書き入れなど一切なく、筆寫年など不詳。この故宮博物院図書館蔵本中に外題を除いて『難經集註』の題はまったく見られない⁸⁾。

一般に和唐本の正式な書名は、巻頭にある内題で採るとするのが定説となっている。巻頭は編著者が自らつけた書名だという理由で長澤は内題を採るべしと主張している。しかし、近年ではむしろ外題を採るべきだという説「編著者が自分の考えている正式な書名を外題に、本の顔となる表紙に書かずに、内側に書くはずがないからである。外題を正式な書名として認知したい」⁹⁾もある。また、『国書総目録』の表記を標準にしようという折衷案もあるようである。しかし『国書総目録』は漢籍が載らない。漢籍類はやはり内題を採るほうがふさわしいことが多い¹⁰⁾。

慶安本では『王翰林集註黄帝八十一難經』、東洋鍼灸専門学校と故宮博物院図書館の蔵本では『王翰林集諸家補註黄帝八十一難經』が題となり、異なっている。これらの書の題では、古鈔本系で外題を除いて『難經集註』の名はまったく見られず、慶安本の柱題、目録題、序文題と一部の外題にのみ『難經集註』の名が見られる。つまり、慶安本の出版に際して出てきた名である可能性が示唆される。

『難經集註』の慶安本、東洋鍼灸専門学校蔵本、故宮博物院図書館蔵本における題名、題名の位置、銜名の位置、巻数は、一冊本、二冊本や五冊本になったときの変遷の名残ではないかと考えられる。

では、当時の出版状況はどうだったのであろうか。この状況を調べるため、全国漢籍データベース¹⁾を利用した。『難經集註』慶安本は慶安五年に出版されている。それに対して、慶安二年～五年にかけて、「集註」の名の付いた書が多く出版されている。『難經集註』は一連の「集註」の名前の付いた書の1つとして出版された経緯があるため、柱題に『難經集註』を明記され、今日『難經集註』と呼ばれるようになった可能性があると考えられた。

出版状況に応じて、題を合わせるという同じような事例は、『鍼灸重宝記』に

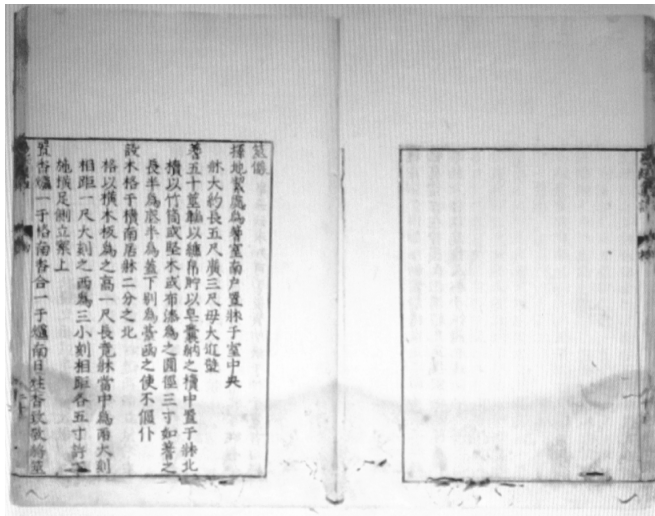


図4b 『易経集註』本文は太字で書かれており、注文は双行となっておらず単行であり、一字低画下で書かれているなどの点では『難経集註』と似た点もある。

おいても見られる。「重宝記」の名の付いた書は江戸時代、明治・大正・昭和にかけて刊行・書写されて、約250種も見られる。その領域は、日常的な家庭生活の事柄から医・薬方、農・工・商業、礼法、俗信など、まさに生活万般にわたる¹¹⁾。刊行者とは関連なく、さまざまな分野にわたっているにも関わらず、「重宝記」という名を用いているのは、「集註」という名の本において起こっていることとよく似ているといえる。

一連の「集註」という名の付いた書で、『難経集註』に似ているものはないであろうか。『難経集註』ではなく、『易経集註』¹¹⁾という本が慶安四年、京都の林甚右衛門によって刊行されている。本文は太字で書かれており、注文は双行となっておらず単行であり、一字低画下で書かれているなどの点では『難経集註』と似た点もある。また、柱題の形は『難経集註』と類似する。この慶安四年本は、鼈頭本ではないが、その後、発刊された本には鼈頭本もみられる。従来、『難経集註』は、『難経本義』¹²⁾と『難経俗解』¹³⁾が大いに世に流布していたので、慶安本を印刷する際、その体式に合わせて、みだりに小字双行註を大字に改めてしまったのだろうと考えられてきたが、『易経集註』(図4b)も影響を与えたのではないかと考えられた。

総括

『難経集註』がなぜ一般に『難経集註』と呼ばれるかを考察した。慶安年間には、「集註」の名の付く出版が多く見られる状況があったことが明らかになった。『難経集註』の慶安本、東洋鍼灸専門学校蔵本、故宮博物院図書館蔵本における題名、題名の位置、銜名の位置、巻数は、一冊本、二冊本や五冊本になったときの変遷の名残ではないかと考えられた。

文献

- 1) <http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>
- 2) 日本内経医学会編：『難経』（慶安本），慶安五年（1652），東京，2007
- 3) 『難経集註 旧鈔本』，北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部 北里大学東洋医学総合研究所刊，2010
- 4) 呂広・楊玄操など注：『王翰林集註黄帝八十一難経』，『難経古注集成』1 所収，東洋医学研究会，大阪，1992
- 5) 渋江抽斎・森立之：『経籍訪古志』，『近世漢方医学書集成』所収，名著出版，東京，1981
- 6) 日本内経医学会編：『難経』（濯纓本），文化元年（1804），東京，1997
- 7) 廣庭基介・長友千代治：『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社，1998
- 8) 真柳誠：難経之屬，『漢方の臨床』，49 卷 2 号：283-289 頁，2002
- 9) 橋口候之介：『和本入門』，平凡社，東京，2005
- 10) 長友千代治編：『重宝記資料集成』，臨川書店，東京，2007
- 11) 程頤〔伝〕・朱熹〔本義〕・昌易〔標註〕：『易経集註』，慶安四年（1651）
- 12) 滑寿（伯仁）注：『難経本義』，旋風出版社，台北，1976
- 13) 吉田牧庵：『難経俗解抄』難経稀書集成 3，東洋医学善本叢書，オリエント出版社，大阪，1997

〒 781-0015 高知県高知市薊野西町 2-22-7
松岡尚則 zuishoumaru@yahoo.co.jp